

【熊本県納税貯蓄組合連合会会長賞】

私たちにできること

山鹿市立菊鹿中学校

三年 今坂 姫莉

税と聞くと、私はあまりよい印象を持っていなかった。「自分が頑張って稼いだお金をなぜ国に納めなくてはいけないのか。」などの疑問が私の中にはあった。ニュースで「物価が上昇」こういった文字がたくさん目に入ってくる。それを見た人の口からは「高いね」「いやだな」などの言葉が数多く出ていた。私はそれを聞いて、「税金ってやっぱりいらんじやないかな」と思うようになった。

ある日学校で租税教室が行われた。その中で税の制度や使われかたについて学習をしていくと、少しずつ自分の考えが変わっていった。税は私たちの身近にあり、私たちを守ってくれていた。私たちが学校で使っている教科書、机や椅子、部活動で使っている体育館など全て税金のおかげだ。そしてそのことを初めて知ったとき、私は思った。台風が来たとき、近くの体育館に避難したことがあった。本来ならば体育館を借りた後に、お金を払わなければならないが、だれ一人、当然私の家もお金を払っていなかった。それも全て税金のおかげということだ。そう考えるうちにたくさんの方が頭に浮かんだ。熱中症で倒れ救急車を呼ぶのにも治療してもらったときなど、もし税金がなかったら救急車を呼ぶのにも治療を受けるのにもお金がかかる。今は様々な制度のおかげで、安くすんでいる。

その他にも道路の整備やゴミの収集、私たちの生活を守るためのダムや建設や河川の工事などいろいろなところに税金が使われている。その税の制度がなかったら、学校に行けない人も出てくるだろうし、災害も増えるかもしれない。税金としてお金を納めなければ手元にお金は残るかもしれないが、その分自分で負担しなければならないお金はその何倍にもなる。学習を通して、税は大切なものだ実感した。

人は人同士支えながら生きている。困ったときは友達や家族など色々な人が助けてくれる。税金も同じだ。税金はだれが納めたものか分からない。だからこそ知らない人にも支えられているのだ。だれかが納めた税金で、私たちの生活が成り立っている。税金は誰かを助け、そしてだれからも助けられている。お互いの助け合い、とてもよいものだ。

私たちはまだ消費税以外の税をほとんど納めていない。税の恩恵を受けることが多い。そんな私たちにできることは何だろう。学校の机や椅子、教科書など、税金で購入したものを大切に使うこと。これが今の私にできる取り組みだ。明日から、いや今日今からこのことを実行していきたい。